

淀橋浄水工場を見る

一 幹 事

首かしげられし朝來の天氣にもか、はらず豫告の如く北豊多摩郡角筈村淀橋浄水所門内に集はれし會員六拾余名、廣く静かにして清らかなる空氣の中に暫時休息後、芝生の小山に登り、一目の下に都下百五拾万の人口に充分供給し得べき浄水場を眺め懇切なる説明をうけ、其水邊を縦覽し、大に益する處ありて後、此處を辭し、十二社に到り、池邊に慰ひ、互に談笑し、あるはダンスなどして樂しく消さまとのとけたるは午後五時半すぎなりき。

浄水場の有様

1、水源 球塵川

2、方法 次の三種の池によりて水を濾過するな

り

イ、沈澄池 ロ、濾過池 ハ、浄水池

イ、沈澄池 (大サ三百立方尺) 三ヶ所

玉川ヨリ全所ニ導キタル水路ヨリ、三ヶノ大

池ニ引キ入レタル水ガ、緩ヤカニ流ル、間ニ

泥砂其他ノ固形分ヲ沈マセテ、清澄ナラシム

ル處

ロ、濾過池 六ヶ所

(イ)ニ於テ澄ミタル水ヲ濾過シ、飲料ニ適ス

ルモノタラシムル池ニシテ、其構造ノ大要ハ

通常ノ家ニ於テ使用セラレシ濾過器ヲ大ナル

設計ニヨラシメタルニ等シク、其底ヲ次ノ如

ク上ヨリ順ニ敷キツメタルモノニシテ、即チ

砂 二尺三寸

小砂利 三寸

小石 五寸 直徑三分一八分

全 全 全 一寸一 二寸

全 全 二寸 三寸

ノ如キ厚サニ煉瓦「コンクリート」ニテ出来タ
 ル池ノ底ヲ土台ニシテ敷キツメ、其上ニ水ヲ
 (イ)ヨリ引キ入レテ、深サ二尺八寸ニ達スル
 ラ度トシ、始終此深サヲ變ゼシメズ、止ムキ
 ナク濾過シ、其砂ノ間ヨリ小石ノ間ヲ通過ス
 ル間ニ、種々ノ細菌其他ノモノヲ殘シ、充分
 清潔ニナリタルモノ、之レヨリ各地各家ニ使
 用スル鐵管ニ送ラル、ナリト云フ猶ホ他ニ淨
 水池ニ送ラル、モノモアリ (二尺八寸ノ深サナ
 常一メートル以上ニ達スルトキ又淺過ケル片ニハ水
 ノ自然壓力ニ影響シ從テ濾過量ニ影響スレバナリ)
 ハ、淨水池
 (ロ)ニ於テ濾過サレ飲料ニ適スル水トナリシ

モノヲ各所ニ送り出スモ其一日ノ中ニ於テ朝
 夕ハ供水量非常ニ増加シ特ニ夏日ニ於テ此
 ノ事多シト其際ニ補フガ爲メ。又夜間水ノ使
 用少ナキ場合溢ル、斗リニナリシモノヲ貯ヘ
 置キ非常ノ際ニ供フルガ爲メノ二用ヲナス處
 ニシテ貯水池トモ云フベキ處ナルナリ」其構
 造ハ水ノ停滯ナカラシメ以テ腐敗ヲ防ギ、其
 水ノ動靜ヲ見能フ様ニ成レリ、即チ池ヲ左右
 ニ分チ煉瓦ヲ以テ壁ヲ造リ、中央ニ人道ヲ造
 リ、上ニハ土ヲオキテ芝生トナシ、外面ヨリ
 ハ一般ノ芝生ノ如クニナシ、其處々ニ通氣孔
 ヲ設ケテ、土管ヲ立テ上ニ蓋ヲナシ新鮮ノ空
 氣ノ流通ニ備ヘ、人道ノ兩側ニハ硝子ヲ所々
 ニ符メ其水ノ流ル、狀ヲ見ルヤウニナサレア
 リト。此淨水池ハ三ヶ所アリ 即一ハ本郷元

町他ノ一ハ芝榮町ニアリ何レモ同ジ形式ナ
リト云フ

3、

其他の建物

a、壓力唧筒ヲ備ヘラレタル機關室此ノ室ニ水ヲ送りテ蒸汽壓ヲ加ヘ水ノ自然力ナル二十尺ヨリ以上ノ高サ、海拔百三十二尺ノ處ニ迄噴出セシメ得ルヤウニシ各消火栓ニ導クタメノ設備建物

b、大雨後水源ノ濁リシ場合之レヲ水路ノ上方ニ於テ澄マシムル爲メニ七萬分一ニウスメラ

斯ク以上ノ如クにして瀘過されたる淨水中にハ一點の塵埃を止めざるのみならず細菌さへ初め三分三厘(一センチメートル立方)立方に五千位わりしものが五十以下に減少し通常の井水よりも衛生上安心なるものとなるといふ

レタル明礬ヲ造リ之レヲ滴下シ得ルガ爲ニ設ケラレタル處ニシテ管ニ孔ヲ明ケラレタル處ヨリ液ヲ水中ニ滴下スルナリ

c、砂洗場此處ニハ一ツノ砂ヲ洗滌スル機械ヲ備ヘラレ瀘池ノ砂ノ上部不淨部ヲカキ取り來リテ之レヲ洗フ處ニシテ五十日目位ニハ必ず之レヲ行フト云フ

集まり會せられし會員は其給水の狀の大にして且つ至れり盡せる設備を見て此設計により都下百萬の人民が如何斗り勞とはぶかれ又衛生上に益を興へられのゝあるかを想はしめられしなるべし折から雨なくして其洗滌池の水の斜に一間余り濁き居たるを見ては雨の必要直接に農夫のみに非ずとおもはれてはまたなか／＼に日常使用の上ニ感謝の念と各家夏冬共によく「ネチ」に注意して滴

てき 々の音を餘外にきかれざるべし。願はくは一覽ありて其状を委しく知り想外の感を得給はんことを附記す

家庭のため

子女を學校幼稚園に托せる方々へ

平山ひさ

ひと 人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道に迷ふとか申しますが誠に子を思ふ親心ははかり知られぬほどありがたいものでございます。その迷ふまでの至情を以て思つて下さる親の恩子たるものはどうして之に報じてよいか分らぬ位でございますが今親子の間の情の方面をしばらく措きまして、父母は其子を教育する教育者でございますから「教

育者は被教育者をよく知らなければならぬ」といふ方から考へますと親は常に子を觀察し子の眞價を知る上に付て迷わぬ様にしなければなりません。子を見る事親に若かずといふ詞通にいつて居れば結構な事でございますが、多くの中にはやゝもすれば眞面目からして其子を良く見過ぎ又は少くとも長處はよく知つて居りながら其欠点はあまり氣がつかずに過すといふやうな傾向、申さば其子の眞價を知らずにそれ以上に認めて居るといふ事がありはいたしますまいか。固より人間は情の動物で殊に親子といふ深い關係のある間柄ではどんな親がどんな子を見るにも多少の欲目は免かれられませんまいが、できるだけ其眞價を知つて教育の方針なり方法なりを定めて行く事が必要でありませう。されば親たるものはつとめて冷靜なる頭腦